

SONY α6100の特徴

世界最速0.02秒4Dフォーカスシステム→P.36、P.138



モード▶シャッタースピード優先 AE (S) 絞り▶5.6 シャッター速度▶1/500
ISO▶200 露出補正▶0 ホワイトバランス▶オート
レンズ▶E 55-210mm F4.5-6.3 OSS 焦点距離▶127mm

世界最速 0.02 秒の高速レスポンスと、フルサイズカメラの動体予測アルゴリズムを継承した高密度 425 点全面位相検出 AF センサーで、予測が難しい子どもの動きを、より高速に、より精度高く捉え続ける。



モード▶シャッタースピード優先 AE (S) 絞り▶8.0 シャッター速度▶1/250
ISO▶100 露出補正▶0 ホワイトバランス▶オート
レンズ▶E 55-210mm F4.5-6.3 OSS 焦点距離▶116mm

高速性と追従性に優れた位相差検出 AF と高精度なコントラスト検出 AF を併用する「ファストハイブリッド AF」システムを搭載。世界最速の高速 AF で、すばやく動く被写体も瞬時に捉える。

かんたん、確実にピントが合うリアルタイム瞳AF
→P.48、P.132



モード▶絞り優先 AE (A) 絞り▶1.8 シャッター速度▶1/1600 ISO▶100
露出補正▶+0.3 ホワイトバランス▶オート レンズ▶E 50mm F1.8 OSS
焦点距離▶50mm

BIONZ X (ピオンズ エックス) の高い画像処理能力とフルサイズカメラで培った技術により、瞳を検出する精度と速さ、追従性が大幅に向上。動きのあるポートレート撮影でかんたん、確実に瞳にピントを合わせ続けることが可能となった。

ボタンの操作を覚えよう

α6100 では、主にコントロールホイールとコントロールダイヤルなどを使い、カメラを操作する。スムーズに設定を変えて撮影するためにも、基本的なボタンの操作に慣れていこう。

1 コントロールホイールの使い方

コントロールホイールは、回したり▲▼◀▶を押したりすることで、選択枠や数値を変えることができる。中央ボタンは選択したものを決定する確定ボタンになる。また、▲▼◀▶には、撮影中カメラに表記されている機能があらかじめ割り当てられている(→P.15)。

■ ボタンを押す



▲▼◀▶：
選択枠をそれ
ぞれの方向へ
動かす。

中央ボタン：
選択した項目を決定する。

■ コントロールホイールを回す



回すことで、選択
枠を動かしたり、
数値を変更したり
する。

2 コントロールダイヤルの使い方



コントロールダイヤルは、回すこ
とで撮影中に必要な設定を即座に
変更できる。メニュー設定時には
選択枠を動かしたり、再生時には
画像を切り換えたりする。

3 カメラに関する設定はMENUボタンから行う



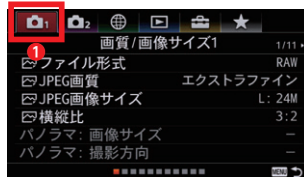
α6100の撮影や再生など、**カメラ全般の設定はメニュー画面から行うことができる**。主な設定方法はMENUボタンを押すと表示されるメニュー画面から、画面上部に表示されるアイコンを選び、それぞれのメニューから設定したい項目を選択していく。

■ メニュー画面を知る

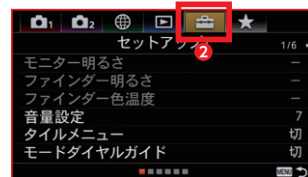


- ①📷1: 撮影設定 1
- ②📷2: 撮影設定 2
- ③🌐: ネットワーク
- ④📺: 再生
- ⑤🔧: セットアップ
- ⑥★: マイメニュー

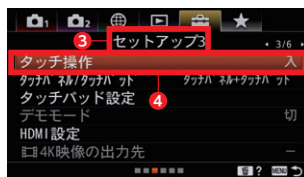
■ 設定を変更する方法



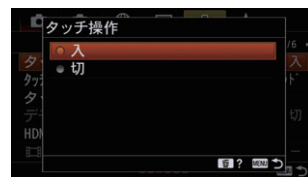
▲で画面上部のアイコンを選択する
①。



◀/▶で希望のアイコンを選択し、
▼を押す②。



◀/▶で設定したい項目が表示される
ページを選択し③、▲/▼で設定
したい項目を選び④、中央ボタンで
決定する。



設定画面が表示されるので、希望の
設定を選んで、中央ボタンを押す。

リアルタイム瞳AFを活用しよう

AI（人工知能）を活用した新技術「リアルタイム瞳AF」は、人物や動物の撮影ではとても頼りになる機能だ。リアルタイムに被写体の人物の瞳を検出して追従するだけでなく、**動物の瞳**にも対応可能になった。

1 顔/瞳AF機能を使ってみよう

顔/瞳AFとは、**AFのときにフォーカスエリア内にある顔や瞳を検出してピントを合わせる機能**のこと。[入] に設定してポートレートや家族写真を撮るときに活用してみよう。



MENUボタンを押し、**15**の[顔/瞳AF設定]を選択し**1**、中央ボタンを押す。



15の[顔/瞳AF設定]を選択し、[顔検出枠表示]を選び**3**、中央ボタンを押す。



両目を捉える角度になると、自動的に瞳にピントが合う。左右どちらの目にピントを合わせるかを設定せずにオートにしていると、カメラに近い方の目にピントが合う。



▲/▼で[AF時の顔/瞳優先]を選択し**2**、[入]を選び、中央ボタンを押す。



▲/▼で[入]を選択し**4**、中央ボタンを押す。

2 ピントを合わせたい瞳に設定する

フォーカスモードが3種のAF時なら（→P.38）、瞳を合わせてシャッターボタンを半押しするだけで、被写体の瞳にピントを合わせてくれる。フォーカスエリアが広い方が瞳を認識する範囲も広くなるので、**ワイドやゾーンで撮影する**のがおすすだ。撮りたい顔を優先的に認識するよう登録したり、左右の目のどちらかにピントを合わせる設定にしたりすることもできる。



15の[顔/瞳AF設定]を選択し、[右目/左目選択]を選び**1**、中央ボタンを押す。



焦点を合わせたい好みの瞳を選択し**2**、中央ボタンを押す。



α6100の測距点は425点と多く、広い範囲をカバーしている。被写体が画面の端にいてもしっかりと瞳を認識し、ピントを合わせてくれる。自由な構図で撮影することができる。

ONE POINT ▶▶▶ リアルタイム瞳 AF が、動物の瞳にも対応

ハイレベルな物体認識技術を用いて瞳を捉えるリアルタイム瞳AFに、新たに動物に対応したアルゴリズムが追加された。これにより、これまでフォーカス枠をピンポイントで合わせることが難しかった、犬や猫などの動物の撮影が格段に撮影しやすくなった。MENUボタンを押し、**15**の[顔/瞳AF設定]から、[検出対象]を[動物]にすると**1**、より動物の瞳を捉えやすくなる。



- 被写体の瞳にピントを合わせてくれる
- 人物だけでなく動物の瞳にもピントを合わせられる

プログラムオート(P)で撮影しよう

Keyword Pモード、プログラムシフト

プログラムオート（Pモード）では、絞り値とシャッタースピードはカメラが調節し、撮影者がISO感度の設定や露出補正をすることができる。また、ホワイトバランスなどの露出以外の設定も撮影者が操作できる。

1 Pモードでスナップを撮ろう

Pモードはカメラが露出を調整してくれるため、シャッターチャンスに注力して撮影できる。絞り値とシャッタースピード、ISO感度をAUTO設定にすれば、写真の明るさをすべてカメラが自動で調整する。AモードやSモードより安定した露出に設定されるため、大きな失敗をしにくいのも特徴だ。一瞬を切り取るスナップの撮影時には、Pモードが特に活躍する。



モード ▶ プログラムオート (P)
絞り ▶ 5.6
シャッター速度 ▶ 1/400
ISO ▶ 100 露出補正 ▶ 0
ホワイトバランス ▶ オート
レンズ ▶ E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS
焦点距離 ▶ 42mm

子どもと遊ぶようなシーンでも、Pモードならカメラが露出を即座に決めてくれるのでシャッターチャンス逃さずすばやく撮ることができる。

設定方法



モードダイヤルをPに合わせる。



Pモードの画面が表示される①。絞り値とシャッタースピードをカメラが自動で設定する。

2 プログラムシフトを使ってみよう

Pモードを使うとき、カメラが自動で設定する絞り値とシャッタースピードの組み合わせを適正露出を維持したまま変更できる機能をプログラムシフトという。この組み合わせによって写真の表現は大きく変わるため、撮影モードを変えることなく絞り値とシャッタースピードを設定できるPモードをうまく活用しよう。



絞り値をF13で撮影。被写界深度は深く、奥までピントが合っていて、説明的な写真になった。



プログラムシフトを使い、絞り値をF4に変えたことで、被写界深度が浅くなり奥のものをぼかすことができた。同じ露出なので、写真の明るさは変わっていない。

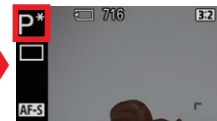
設定方法



Pモード使用時、コントロールダイヤルを回すと、カメラが設定した適正露出のまま絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更できる①。



コントロールダイヤルを回すたびに組み合わせが変わる②。



プログラムシフトを使うと、表示は「P」から「P*」に変わる。撮影モードを変更するか電源を切れば、プログラムシフトを解除することができる。

まとめ

- スナップなど撮影に集中したいときにはPモードを活用しよう
- プログラムシフトを使えば、適正露出を維持したまますばやく絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更できる

標準ズームレンズを
使おう

標準ズームレンズとは、**人間の視野角に近い画角の約35mmの焦点距離**をはさんで、**広角域から中望遠域をカバーするレンズ**のことだ。1本のレンズで広い風景から望遠気味に風景の一部を切り取った撮影が可能で、幅広いシーンで作品作りが楽しめる。



E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS

焦点距離 (35mm 判換算) : 16-50mm (24-75mm 相当)
開放絞り : F3.5-5.6
レンズ構成枚数 : 8 群 9 群
フィルター径 : φ 40.5mm
最短撮影距離 : 0.25m
希望小売価格 40,000 円 (税別)



レンズキットとして付属する E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS は、広角から中望遠までをカバーしたズームレンズ。光学式手ブレ補正と電動ズーム機能で静止画から動画撮影まで手持ちでも快適な撮影ができる。

モード ▶ シャッタースピード優先 (S) 絞り ▶ 5.0 シャッター速度 ▶ 1/125
ISO ▶ 200 露出補正 ▶ ±0 ホワイトバランス ▶ 太陽光 レンズ ▶ E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS 焦点距離 ▶ 31mm

1 見たままの風景をナチュラルに切り取る

日没直後のマジックアワーをライトアップされた橋とともに表現した。ズームレンズなら遠くの景色と海、橋とのバランスを考えてベストな構図で撮ることができる。赤く染まった空と暗くなっていく空の美しいグラデーションをしっかりと表現できている。



モード ▶ シャッタースピード優先 (S)
絞り ▶ 13 シャッター速度 ▶ 30
ISO ▶ 100 露出補正 ▶ -1.3
ホワイトバランス ▶ 太陽光
レンズ ▶ E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS
焦点距離 ▶ 42mm

2 広角から中望遠域でさまざまな被写体に対応

広角側16mmで撮影すると船や桟橋、周りの風景を一緒に写し込めてその場の状況や広々とした写真が撮れる。一方、望遠側50mmで撮影すると、被写体となる船だけを切り取れて、グッと寄った印象の写真が写せる。絞り値をF8.0くらいにすると肉眼に近い自然な描写になる。



モード ▶ 絞り優先 (A)
絞り ▶ 8.0 シャッター速度 ▶ 1/320
ISO ▶ 100 露出補正 ▶ 0
ホワイトバランス ▶ オート
レンズ ▶ E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS
焦点距離 ▶ 16mm



モード ▶ 絞り優先 (A)
絞り ▶ 8.0 シャッター速度 ▶ 1/400
ISO ▶ 100 露出補正 ▶ 0
ホワイトバランス ▶ オート
レンズ ▶ E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS
焦点距離 ▶ 50mm

- 幅広いシーンで活躍できる広角から中望遠をカバーする基本のレンズ
- 肉眼に近い画角と自然な描写で写真を表現できる

シーンに合わせて
ドライブモードを使い分けよう

■ Keyword ドライブモード、RAW、連続撮影、セルフタイマー、サイレント撮影

1枚撮影や連続撮影、セルフタイマーなど、シャッターを切った際のカメラの動作はドライブモードで選択することができる。連続撮影の速さやセルフタイマーなど、細かな設定ができる。

1 ドライブモードの種類

ドライブモードでは、1枚撮影の他に、連続撮影やセルフタイマーなど、**シャッターを切ったときのカメラの動作**を選ぶことができる。動く被写体には連続撮影、露出に不安がある場合には連続ブラケットなどを使い分け、シーンに合わせて撮影しよう。

■ ドライブモードの種類

1枚撮影	通常の撮影方法で、シャッターボタン全押しで、一枚撮影する。
連続撮影	シャッターボタンを押している間、連続して撮影する。
セルフタイマー	シャッターボタンを押してから指定した秒数後に、セルフタイマーで撮影する。
セルフタイマー (連続)	シャッターボタンを押してから指定した秒数後に、セルフタイマーで指定枚数撮影する。
BRK C 連続ブラケット	シャッターボタンを押し続けることで、露出を段階的にすらし、画像を撮影する (→P.114)。
BRK S 1枚ブラケット	露出を段階的にすらし、指定枚数の画像を1枚ずつ撮影する。
BRK WB ホワイトバランスブラケット	ホワイトバランスと色温度、カラーフィルターの値を段階的にすらし、3枚撮影する (→P.115)。
BRK DRO DROブラケット	Dレンジオブティマイザーの値を段階的にすらし、3枚撮影する。

■ 設定方法



◀を押し、ドライブモード設定の画面を表示する①。



▲/▼で好みのドライブモードを選択し②、中央ボタンを押す。

2 RAWで連続46枚の高速連写

連続撮影では、Hi+ (約11コマ/秒)、Hi (約8コマ/秒)、Mid (6コマ/秒)、Lo (3コマ/秒) から連写速度を選ぶ。シャッターボタンを押し続けられ、RAW (圧縮) で約33枚、JPEGのスタンダードで約77枚を撮り続けることができる。AF-Cで撮影すると、連写中でもピントを追従させることが可能だ。



撮影後にデータを編集しやすいRAWでも連続撮影ができる。子どもの表情や一瞬の動きなど、変化し続けるシーンも途切れることなく撮影できる。

3 セルフタイマーを使ってブレを防ぐ

セルフタイマーの2秒は、低速シャッターでシャッターボタンを押したときに、カメラが動いてしまい写真がブレるのを防ぐために使う。また、手ブレを防ぐ方法としてサイレント撮影がある (→P.130)。サイレント撮影ではシャッター幕の動きがなくなるため、カメラがまったく振動せずに撮影することができる。



セルフタイマーとサイレント撮影を組み合わせれば、カメラにほぼ振動を与えず撮影できる。ただし、サイレント撮影ではHDRを使うことができないため注意。

モード▶シャッタースピード優先 (S)
絞り▶11
シャッター速度▶4 ISO▶100
露出補正▶0
ホワイトバランス▶オート
レンズ▶E 55-210mm F4.5-6.3 OSS
焦点距離▶210mm

まとめ

- ドライブモードとは、シャッターを切ったときのカメラの動作を選べる機能
- 動く被写体には連続撮影、ブレが気になるときはセルフタイマーを使う

街スナップを 広角レンズで切り取ろう

Keyword 広角レンズ、スローシャッター、グリッドライン、構図

街には絵となる被写体が多く点在するが、都会の街を撮るには、広角ズームレンズや標準ズームレンズがぴったりだ。**広角レンズは狭い空間をより広く見せて**、遠近感で被写体と周辺とのメリハリを付けてくれる。**街の一分部を切り取りたいときには標準ズームレンズ**がよい。街スナップは構図やアングルにとらわれずに、見たままやレンズ特性を駆使して印象強い写真を撮ることが大事だ。

1 ビル群を広角レンズでダイナミックに撮る



高層ビル群の一角を道からビルの上まで写すため超広角レンズで撮影した。画面の**中央にヌケのある青空を入れる**ことで遠近感を増し、ダイナミックかつ立体感のある写真になる。また、画面の隅々までシャープな描写にするために絞り値はF8に絞って写した。

モード▶絞り優先 (A)
絞り▶8.0
シャッター速度▶1/320
ISO▶100
露出補正▶-0.3
ホワイトバランス▶太陽光
レンズ▶E 10-18mm
F4 OSS
焦点距離▶10mm

写真DATA

2 歩行者をぶらして街の躍動感を演出する

オフィス街のホコ天をスローシャッターで撮影した。**歩く人々をぶらして写ることで躍動感を表現**し、光芒の出た太陽をアクセントに街の風景を捉えた。シャッタースピードは歩く人のスピードにもよるが、1/8～1/30秒くらいを目安にしよう。



モード▶シャッタースピード優先 (S)
絞り▶13
シャッター速度▶1/8
ISO▶100 露出補正▶-0.7
ホワイトバランス▶太陽光
レンズ▶E 10-18mm F4 OSS
焦点距離▶10mm

写真DATA

3 シンメトリーな建物を撮る

街の中には、左右または上下が対称になっている、シンメトリー構造の建造物があり、どっしりと落ち着いた雰囲気 に写せる。**構図を決めるときは、グリッドライン (→P.104) を活用**して、水平垂直を意識しながら左右または上下が半分になるように撮ることだ。



モード▶絞り優先 (A)
絞り▶8.0
シャッター速度▶1/160
ISO▶100 露出補正▶0
ホワイトバランス▶太陽光
レンズ▶E PZ 16-50mm F3.5-5.6 OSS
焦点距離▶16mm

写真DATA

まとめ

- 広角レンズで遠近感を強調して高さや広がり表現する
- スローシャッターで歩行者をぶらして躍動感を演出する
- 左右対象の建造物はシンメトリー構図で撮る